

される。特に、県北・県中地域において急増するものと予測される(表2-4-4, 表2-4-5)。

したがって、今後は、昭和65年度をピークとする中学校卒業者数の急増・漸減に対処して、入学定員の適正化を図る必要がある。

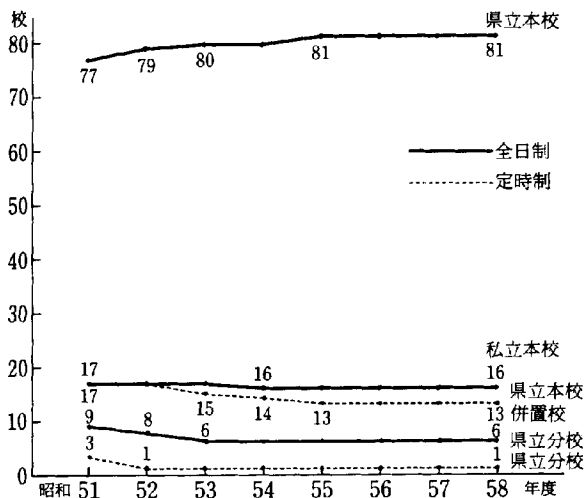
(3) 学校・学科の配置

昭和51年度から昭和58年度までの設置者別学校配置の推移を見ると、県立高等学校では、全日制課程の本校が昭和51年度に77校であったが、その後4校増加し、昭和55年度以降変動は見られない。また、分校は、昭和51年度に9校であったが、その後、3校減少し昭和

53年度以降変動は見られない。また、定時制課程では、本校・併置校・分校を合わせて昭和51年度に20校あったが、昭和55年度に14校となり以後変動は見られない。私立高等学校では、昭和54年度以降変動は見られない(図2-4-8)。通信制課程は、全く変動がない。

次に、地域別学校配置状況を見ると、全日制課程においては、県北・南会津で若干の変動が見られるものの、その他の地域では、変動が見られない(図2-4-9)。

図2-4-8 設置者別高等学校数の推移



注：1. 「学校統計要覧」(昭51～昭58)による。
2. 私立は、休校中の1校を含まない。

表2-4-4 地域別志願率の予測

(単位：%)

地域	県北	県中	県南	会津	相双	いわき	県全体
60	96.0	94.4	95.2	96.2	95.3	96.0	95.4
65	96.4	95.6	96.2	96.7	96.1	96.5	96.1
70	96.5	95.9	96.5	96.9	96.3	96.7	96.5

注：1. 「高等学校教育課推計」(昭58)による。
2. 回帰方程式は $y_i = (a+b)\log(x_i-52)$ であり、 x_i は年度、 y_i は志願率である。

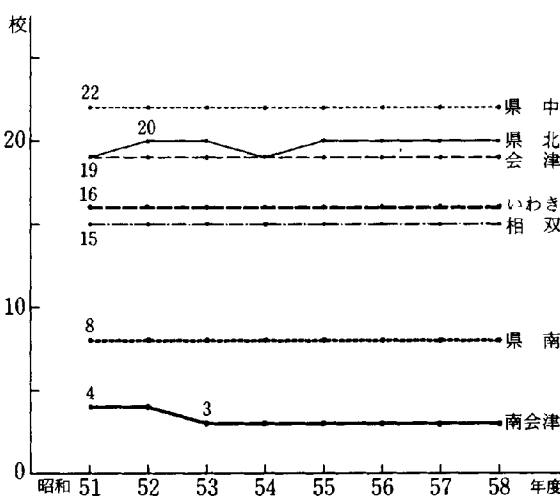
表2-4-5 地域別中学校卒業者数の予測

(単位：人)

地域	県北	県中	県南	会津	相双	いわき	計
60	7,400	7,900	2,100	4,500	3,000	5,400	30,300
65	8,300	8,900	2,400	4,800	3,600	5,800	33,800
70	7,500	8,200	2,300	4,600	3,300	5,000	30,900

注：「総務課推計」(昭58)による。

図2-4-9 地域別高等学校数の推移(全日制)



注：1. 「学校統計要覧」(昭51～昭58)による。
2. 学校数は、県立、私立の合計で分校を含む。

また、定時制課程においては、県南地域以外の地域では、いずれも減少し続け昭和55年度以降は変動が見られない(図2-4-10)。

学科別に見た学校構成比の推移を見ると、全日制課程では、2学科以上の併置校の構成比は